

## 皇子山総合運動公園陸上競技場 第2種公認競技場更新に伴う改修工事の入札に関する経緯について

現在、第2種公認競技場である皇子山総合運動公園陸上競技場は、昭和53年に開設以降5年毎に計8回、公認継続検定のための改修工事を実施している。



- 日本陸連の条件を満たさない場合、第2種公認陸上競技場が取り消され、各種公認大会の開催や記録公認がされなくなる。
- 更新が一度切れると、次回公認は新規扱いになり、必要条件のハードルが高くなる。

### ■陸上競技場改修の経緯

#### 【H30継続検定にむけて】

平成30年の継続検定を受けるにあたり、本市は、全天候型舗装のトップコートのやり直しを中心とした3ヵ年補修計画（H30～R2年度）を日本陸連に提示したうえで、検定を受検した。

#### 【検定結果】

平成30年12月（8回目継続）の検定において、日本陸連から公認継続にあたり下記のとおり条件が付与される。

（以下、日本陸連公認条件（抜粋））

全天候型舗装が5年間の公認期間中に競技会に支障がでる状況で、本来保留（不合格）とするところ、整備内容に不足があるものの3年間の整備計画を策定されていることと競技会の日程等を考慮して条件付きとする。

- ①全天候型舗装の老朽化及び磨耗している箇所の全面的な改修（切削オーバーレイ）を3ヵ年計画に盛り込み、早期に実施のこと
- ②全面的な改修に併せてレーン幅、助走路幅を1m220にすること



#### 【日本陸連との協議結果】

上記の条件について日本陸上競技連盟と協議を行い、高体連の競技会ができるよう令和3年5月末に完了する条件が認められた。

### ■予算の状況

2億5千万円（令和2年度 1億円、令和3年度 1億5千万円（債務負担））

## ■入札手続きについて

入札日 令和2年9月11日（一般競争入札）7者参加

### 【開札結果】

No	業者名	金額	結果
1	A	最低制限価格を2000円下回る	失格
2	B	最低制限価格を大きく下回る	失格
3	C	最低制限価格を2000円下回る	失格
4	D	予定価格と最低制限価格の間	
5	E	予定価格と最低制限価格の間	
6	F	予定価格と最低制限価格の間	落札
7	G	最低制限価格を大きく下回る	失格

### 「問題①」

入札に参加した2業者から疑義が生じた。調査の結果、資材の見積り単価の端数処理を「切り捨て」とすべきところを「四捨五入」としていたため、「切り捨て」で再計算したところ、最低制限価格及び落札者の決定に変更が生じることが判明した。

このことから、令和2年9月16日、入札における落札者（F）の落札決定を取り消した。

正しい最低制限価格であれば、本来落札していたはずの業者に不利益が生じないように、当初の応札内容を生かして再開札とした。結果、本来落札する予定であった2者（A, C）でクジ引きを行い、A者を落札決定した。

### 「問題②」

F社から質問があり、再度、設計書の精査を実施。結果、資材の見積り単価の採用にあたり、見積り数を「3者」で採用していたが、「5者」が基準内容と適合すると判断した。

上記の事由については、応札業者の見積り額に影響を及ぼす内容であることから、A者についても令和2年9月30日に落札決定通知の取消しを行った。

### （結果）

**上記のことから再入札とすることに決定**

### 【問題点】

- 国土交通省と滋賀県土木交通部の、2種類の土木工事標準積算基準書があるが、国土交通省の基準書を使用していたことによる。担当は裁量の範囲だと解釈しており、積算基準の理解が不十分だった。

### 【再発防止策】

- 庁内の積算内容について検証した結果、同様の事例は確認していない。
- 大津市技術管理委員会を通じて、本市積算基準の統一的な運用の再周知及び決定

## ■第2種公認継続に向けた今後の取組み

- 当初どおり、令和3年5月末までの工事完了を目指す。
- びわ湖毎日マラソン開催予定日である令和3年2月28日の前後一週間は工事を中止する計画としていたが、大会主催者等関係者と協議し、可能な限り工事を実施することで、工期の短縮に努力する。